

リーディングDXスクール事業【実践事例】

相馬市立中村第二中学校（福島県）

【取組内容①】 学校全体における協働学習の実施（学級活動-未来の教室充実事業）

工夫した
ポイント

Google Meetで全学年・全クラスをつなぐことで、学年を超えた協同学習を行うことができるよう工夫した。

〈授業の実際〉

主な学習活動

情報機器やインターネットを利用することで起こるトラブルに巻き込まれる危険性について学ぶ。

1 本時のねらい

利用者全員が、情報モラルを守りながら、情報機器やインターネットを利用した生活をしていくにはどうすればよいか考え、表現することができる。

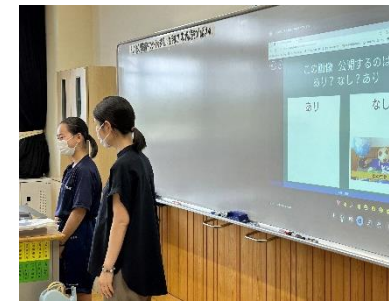
2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

プロジェクタ

Google classroom

3 活用のポイント

主な学習活動	ICT機器活用のポイント
<p>全校の意見を知り、自分たちの考えと比較する。 自分たちのグループの意見を再検討し、必要があれば修正を図る。</p>	<p>グループ活動や、学習支援ソフトを活用して全校の意見の共有をすることで、他者との意識の違いを確認できるようにする。他のグループの意見と比較し、自分たちで一度結論づけた意見を再検討することで学習内容について、より深く考えることができるようにする。</p>

ファシリテータによる
情報発信の様子学級での話合いの様子
(学級担任が指導者)

4 活用効果

タブレット端末で資料を操作しながら発表することで、根拠を示しながら自分の考えを伝えることが出来た。また、自分たちの意見を修正する際にも、資料に加筆して提示する事で、容易に意思表示をすることができた。さらに、ネットワークを通して、全学年をつなぐことによって考えの違う多くの人と意見を交換することが、深い学びへとつながっていた。